

医療史跡探訪 — 医学史を歩く

諸澄 邦彦 著



Isotope News 誌の読者にはお馴染みの連載記事である「医療史跡」が1冊の書籍としてまとめられた。この記事は、実際にその地を訪れた著者により、それぞれの地域に残る医療史跡が紹介されており、その史跡の背景が簡潔でありながら、興味深く解説されており、コンパクトに学ぶことができる。史跡にまつわる人物像が描

かれていることも本書の特徴である。著者は放射線診療に長年たずさわった経験をお持ちであり、使命感を持って放射線安全に取り組まれていることから、放射線にゆかりのある医療史跡も紹介されている。歴史に強い関心を持つ方以外でも、毎回の記事で医学史を学ぶことを楽しみにしている読者が多数おられることだろう。国内外の各地の史跡が紹介されていることから、ご自身がお住まいの地域の近くの史跡のことを確認されたり、機会があれば訪れる場所として参考にしている方もおられることだろう。これまでに刊行された記事がこのようにまとまった形で手にできるのは重宝なことである。

医学の歴史から私たちは何を学べるだろうか？ 様々な貢献によりなされた医療技術の発展の歴史に学ぶべきことは多いだろう。今日の医療の発展は犠牲の上に成り立っているとも言えるだろう。「医療史跡」から読者の皆

様は、どのようなメッセージを受け止めておられるだろうか？ ここであなたは1つの疑問を思い浮かべるかもしれない。そもそも「医療史跡」のシリーズが、これまで続けられている動機とは何だろうか？

その答えになるものとして、本書は、これまでに Isotope News 誌に掲載されたものに加えて著者の思いも書かれている。ネタばれになってしまうが、医療史を学ぶことの重要な側面として医療倫理の課題がこの書籍では取り上げられているのである。残念なことに私たちは負の歴史がある。しかも、それが繰り返されており、それらを学ぶ必要がある。その時には、社会において正しいと思われたことが、後から振り返ると、倫理上、重要な問題をはらんでいるという課題である。医療でも倫理的ジレンマは日常的な課題となり得る。倫理的ジレンマは往々にして正解がない難問である。よかれと思った行動が取り返しがつかない思いも掛けない結果を生むことにもなる。

倫理的な課題に対しては、自身の倫理的な考えの特性を理解した上、様々な角度から考える必要がある。この観点から、日々の課題に向き合う上で、過去の具体的な教訓に学ぶことは重要であることが分かるだろう。歴史から学ぶことの意義として倫理の課題も重要であることを改めて確認したい。この書籍に示されている医療に関する負の歴史に関して知識があつたり関心がある方だけではなく、今後、医療の分野で仕事をなさる方にもお薦めしたい。

医療史跡は、この時代にも積み重ねられている。そのような場所では、その地を訪れた方に向けたメッセージを受け取ることができるだろう。

(山口一郎 国立保健医療科学院 生活環境研究部)

(ISBN978-4-86003-482-5, 256 頁, 本体価格 1,200 円 (税別), 医療科学社, ☎ 03-3818-9821, 2016 年)

❖ Isotope News 読者アンケート実施中! ❖

今後の誌面作りの参考のため、アンケートにご協力をお願いいたします。

◎回答方法：右のQRコードからアクセスし、入力をお願いいたします。

(<https://goo.gl/forms/VVjGLR1DhgTrg27z2>)

◎締切：8月31日(木)

FAX または郵送での回答希望の場合は、49ページをご参照ください。

